



「SOMPO アート・ファンド」実施報告書

2016-2020

公益社団法人企業メセナ協議会

2021 Arts Fund 「芸術文化による社会創造ファンド」

ファンド設立趣旨

S O M P O アート・ファンドとは

スポーツだけでなく文化の祭典でもある 2020 年のオリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、日本各地で行われる多様な芸術文化活動を活性化し、レガシーとなるよう損害保険ジャパン株式会社が 2016 年 6 月、企業メセナ協議会「2021ArtsFund」（2021 芸術・文化による社会創造ファンド）内に設立したアートファンド。全国各地で実施される個性豊かなアートプロジェクトや国際的なアートフェスティバル等を支援し、各地で芸術・文化活動に携わる方々のネットワークの形成にも寄与するよう交流する場も設けている。全国に支店がある強みも活かし、支店と活動者との連携による相乗効果も図る。

助成概要

支援内容について

■支援対象

当ファンドでは、以下のような芸術・文化活動を支援の対象とします。

- (1) 未来の文化創造に貢献し、人々のクリエイティビティを高めていくような芸術・文化活動
- (2) 地域の魅力を顕在化させ、その独自性を発揮していくような芸術・文化活動
- (3) 文化による国際交流、および多方向性ある文化交流を促すような芸術・文化活動
- (4) その他、芸術・文化による社会課題の解決および社会創造に寄与する活動
 - * 営利を目的としない芸術・文化活動を行っている団体であれば、法人格の有無は問いません。
 - * 営利を目的とする活動、商行為と密接に結びつくとみなされる企画については対象としません。
 - * 特定の政党や宗教の普及にかかわる活動、反社会的な活動、非公開の活動については対象としません。

■支援概要

応募企画の内容および規模に鑑みて、助成金を交付

第 1 回：最大 500 万円

第 2～5 回：総事業費 1/2 以内で、最大 300 万円

- ※ 他の助成金、協賛などを重複して受けることができる。
- ※ 入場料、物販などの収入を得ていてもよい。
- ※ 同一団体から複数の企画を応募可能。
- ※ 複数団体による連携企画も可能です。
- ※ 支援対象となる活動については助成金の費目の用途は定めない。ただし、当該活動の実施のために充てられる支出を対象とし、通年の事務局運営にかかわる経費などは対象としない。

■選考委員

大澤寅雄氏 [株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 主任研究員] ※第 4・5 回

山出淳也氏 [NPO 法人 BEPPU PROJECT 代表理事／アーティスト]

吉澤弥生氏 [共立女子大学文芸学部教授／NPO 法人地域文化に関する情報とプロジェクト[recip]理事]

片山正夫氏 [公益財団法人セゾン文化財団 理事長] ※第 1 回～3 回

■特徴

- ・助成活動による相互交流、ネットワーク形成を奨励し、促進するためのキックオフミーティング、ネットワークミーティング開催。
- ・全国各地にある損保ジャパン（株）の支店・営業所と助成活動による相互交流および交流型支援を奨励し、促進。
- ・S O M P O アート・ファンドでは、2020 年以降を見据え、日本文化の魅力発信、共生社会、国際化に繋がるレガシーを創出することを目的とした「beyond2020」の理念に共感し、S O M P O アート・ファンドに採択された活動に対し「beyond2020」の申請を推奨。（第 3 回より）

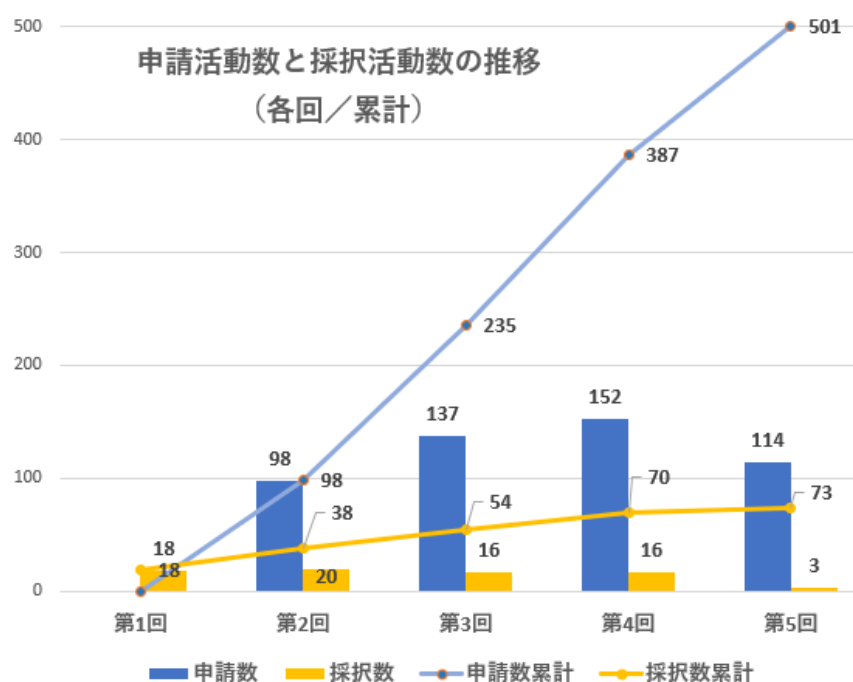
ファンドデータ

申請活動数と採択活動数

	対象活動期間	選考日	申請数	採択数
第1回	2016/8/1～2017/3/31	2016/7/22		18
第2回	2017/4/1～2018/3/31	2017/5/15	98	20
第3回	2018/4/1～2019/3/31	2018/1/26	137	16
第4回	2019/4/1～2020/3/31	2019/2/1	152	16
第5回	2020/4/1～2021/3/31	2020/2/3	114	3
合計			501	73

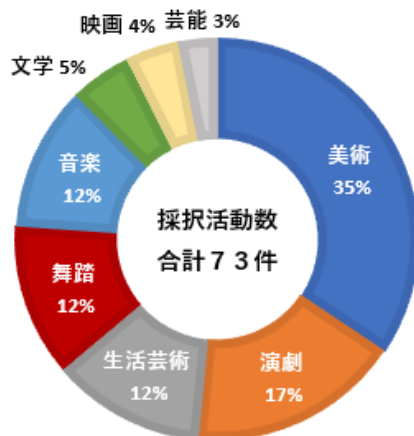
※第1回は公募実施せず。

※第5回新型コロナウイルス感染症拡大防止により開催中止となった団体を除く



採択活動ジャンル

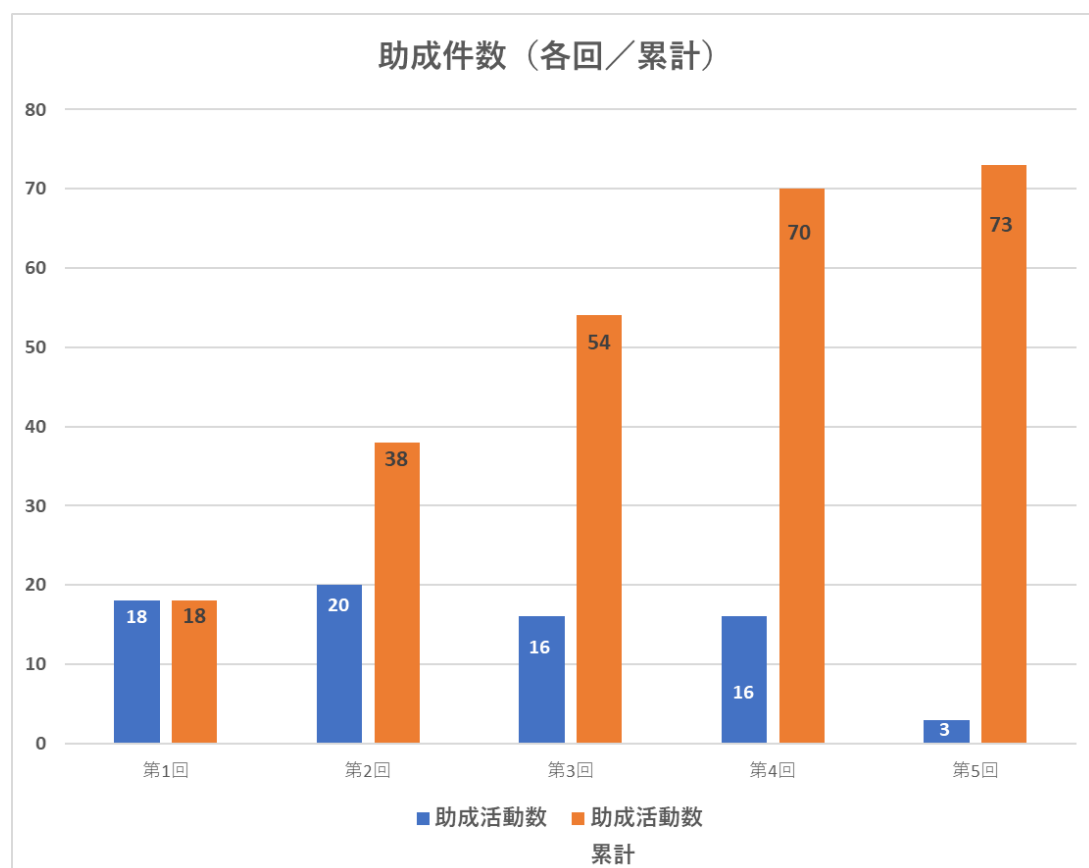
■美術 ■演劇 ■生活芸術 ■舞踏 ■音楽 ■文学 ■映画 ■芸能



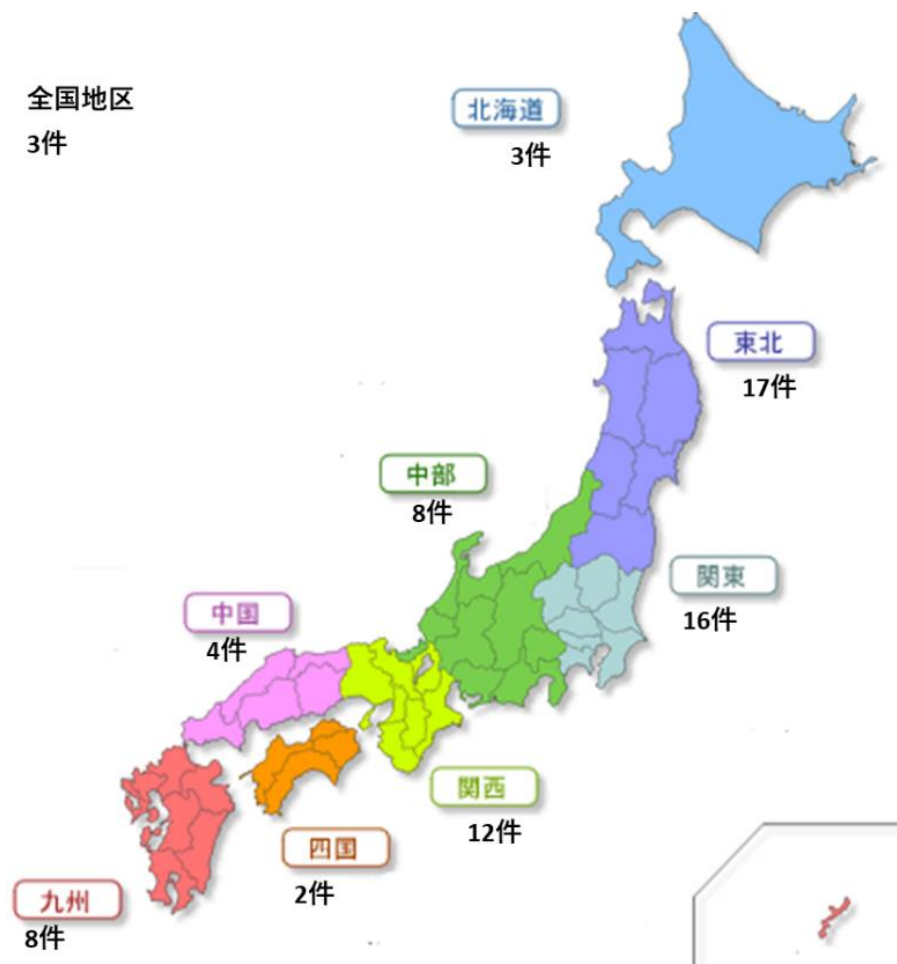
助成活動数（各回／累計）

(件)

	対象活動期間	助成活動数	助成活動数 累計
第1回	2016/8/1～2017/3/31	18	18
第2回	2017/4/1～2018/3/31	20	38
第3回	2018/4/1～2019/3/31	16	54
第4回	2019/4/1～2020/3/31	16	70
第5回	2020/4/1～2021/3/31	3	73



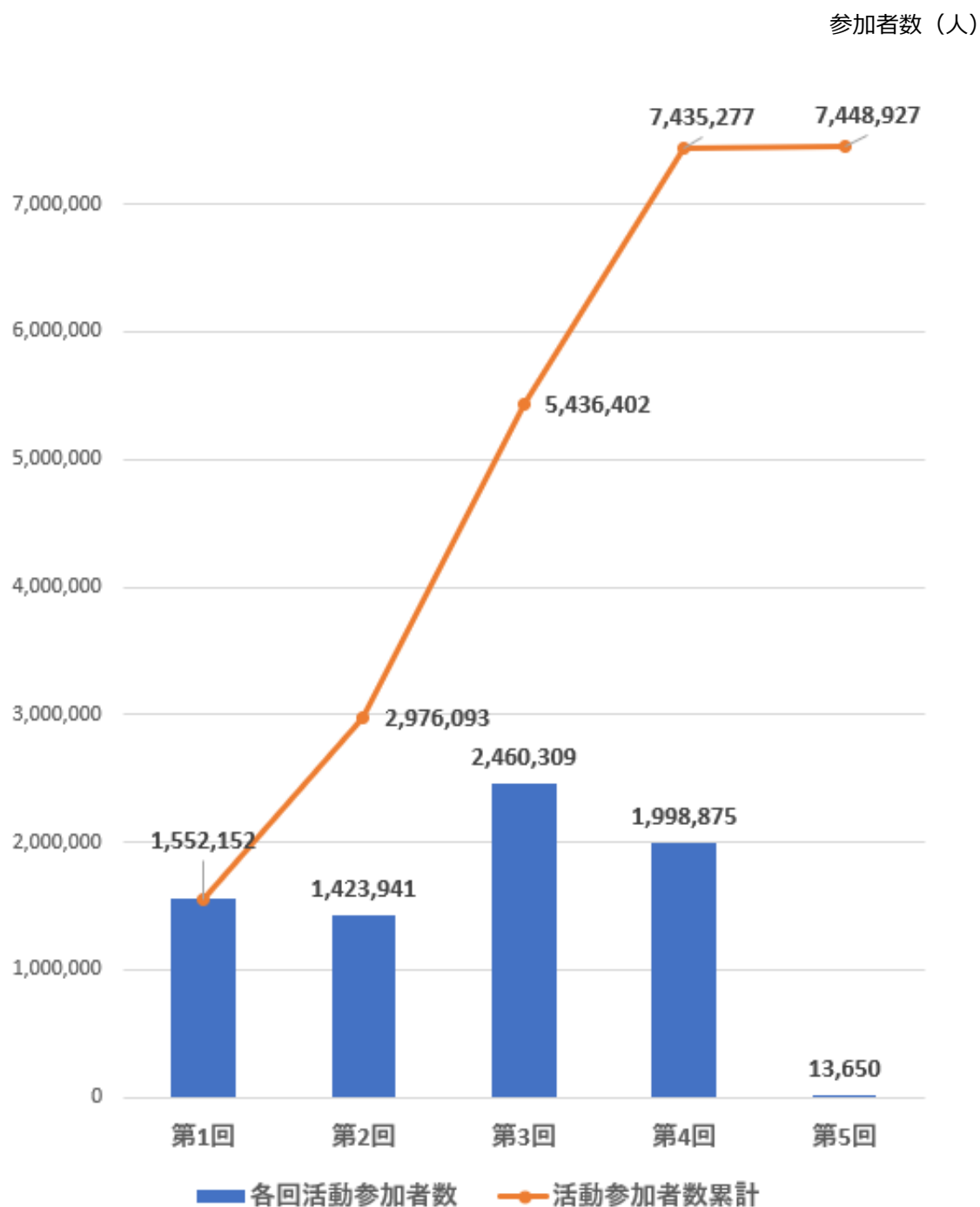
地域別助成活動数



(件)

地区		活動数
北海道	北海道	3
東北	岩手県	6
	宮城県	5
	山形県	2
	福島県	4
関東	茨城県	1
	群馬県	2
	埼玉県	3
	東京都	4
	神奈川県	6
中部	新潟県	2
	富山県	2
	長野県	1
	静岡県	2
	愛知県	1
関西	京都府	4
	大阪府	3
	兵庫県	4
	奈良県	1
中国	岡山県	2
	広島県	2
四国	徳島県	2
九州	熊本県	3
	大分県	5
全国地区		3
合計		73

助成活動への入場者・参加者数



※第5回（2020年4月～2021年3月）は新型コロナウイルス感染拡大防止により中止となった団体を除く。

助成活動の記録

支援の内容

地域／団体名	ページ数
北海道	
札幌国際芸術祭実行委員会 [第 2 回]	15
飛生コミュニティー [第 3・5 回]	22・34
岩手県	
NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク／三陸国際芸術推進委員会 [第 1・2・3・4 回]	8・15・22・28
なつかしい未来創造株式会社 [第 1・2 回]	8・16
社会福祉法人 光林会るんぴに美術館 [第 1 回]	9
宮城県	
一般社団法人 COMMONS [第 1 回]	9
公益財団法人仙台市市民文化事業団 [第 1・2・3・4 回]	9・16・23・28
山形県	
認定 NPO 法人山形ドキュメンタリー映画祭 [第 1・2 回]	10・16
福島県	
特定非営利活動法人プロジェクト FUKUSHIMA！ [第 1・2・3 回]	10・17・23
あいづまちなかアートプロジェクト実行委員会 [第 5 回]	34
群馬県	
中之条ビエンナーレ実行委員会 [第 2・4 回]	17・29
茨城県	
茨城県北芸術祭実行委員会 [第 1 回]	10
埼玉県	
さいたまトリエンナーレ実行委員会 [第 1 回]	11
公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 [第 2・3 回]	17・23
東京都	
PortB [第 1 回]	11
有限会社ブーク人形劇場 [第 2・3・4 回]	18・24・29
シアターコモンズ実行委員会 [第 4 回]	29
Interdisciplinary Art Festival Tokyo [第 4 回]	30
神奈川県	
Arts for HOPE [第 1 回]	12
特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センター [第 1・2・4 回]	11・18・30
横浜トリエンナーレ組織委員会 [第 2 回]	18
横浜アーツフェスティバル実行委員会 [第 3 回]	24
富山県	
富山県 [第 2・4 回]	19・30
長野県	
原始感覚芸術祭実行委員会 [第 2 回]	19

新潟県	
写真の町シバタ・プロジェクト実行委員会 [第 2 回]	19
水と土の芸術祭 2018 実行委員会 [第 3 回]	24
静岡県	
特定非営利活動法人クロスメディアしまだ [第 3 回]	25
NPO 法人クリエイティブサポートレッツ [第 4 回]	31
愛知県	
あいちトリエンナーレ実行委員会	31
京都府	
京都国際舞台芸術祭実行委員会 [第 1・2 回]	12・20
京都 : Re-Search 実行委員会 [第 3 回]	25
東山アーティスト・プレイメント・サービス実行委員会 [第 4 回]	31
大阪府	
ブレーカープロジェクト実行委員会 [第 1・3 回]	12・25
アートエリア B1 [第 2 回]	20
兵庫県	
六甲山観光株式会社 [第 1・3・4 回]	13・26・32
港都 KOBE 芸術祭実行委員会 [第 2 回]	20
奈良県	
特定非営利活動法人なら国際映画祭実行委員会 [第 1 回]	13
岡山県	
岡山芸術交流実行委員会 [第 1・4 回]	13・32
広島県	
広島市文化協会 [第 3 回]	26
ひろしまトリエンナーレ実行委員会 [第 4 回]	32
徳島県	
神山アーティスト・イン・レジデンス実行委員会 [第 3・4 回]	26・33
大分県	
「混浴温泉世界」実行委員会 [第 2・3・4・5 回]	21・27・32・33・35
第 33 回刻人文化祭、第 18 回全国障害者芸術・文化祭日田市実行委員会	27
熊本県	
SASHIYORI Art Revival Connection KUMAMOTO [第 1・2 回]	14・21
公益財団法人熊本市美術文化振興財団 [第 2 回]	21

第1回採択活動（期間：2016年8月1日～2017年3月31日）

採択件数：18 活動

活動名	ヒューマンセレブレーション 三陸国際芸術祭 2016
実施団体	NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク（京都府）
実施場所	岩手県大船渡市、宮城県気仙沼市、青森県八戸市、東京都六本木
活動内容	文化芸術による東日本大震災からの復興とあらたな文化芸術の創出を目的に、三陸沿岸の風土と歴史から生まれ、生活に寄り添う芸術“郷土芸能”の紹介や三陸の人々が主役となるダンス・演劇作品の創作・発表を実施。2014 年から始まり 3 年目にして八戸会場が加わり、周辺催事や六本木アートナイト など と幅広く連携をとりながら大きく展開を図る。
 	

活動名	なつかしい未来創造事業アーティスト・イン・レジデンスプログラム(陸前高田 AIR 2016)
実施団体	なつかしい未来創造株式会社（岩手県）
実施場所	岩手県陸前高田市、住田町、東京、タイ、オーストラリア、UK
活動内容	国内外のアーティストを招聘し、一定期間の滞在をしながら土地のリサーチや作品制作を実施し、その作品を展示。アートを通じて東日本大震災の復興の過程の記録を試みる。また地元資源を活用し、アーティストの感性による新たな価値観を生み出し、未来へつなげるためのプログラムを実施。
 	

活動名	命は創造をやめない―被災地から生まれる創造と表現
実施団体	社会福祉法人光林会るんびにい美術館（岩手県）
実施場所	岩手県花巻市
活動内容	知的障害者によるアート作品の企画展示と創作活動を支えるアトリエを併設する美術館。東日本大震災において 災害弱者となった知的障害者による美術作品を含む、被災者による創作物の紹介とその表現によって生まれた人と人とのつながりに光をあてる展覧会を開催。また震災記録映画の上映とトークショー、被災体験者による公演もあわせて実施。



活動名	住民主体による南三陸町と沖縄・八重山地域との交流促進事業
実施団体	一般社団法人COMMONS（宮城県）
実施場所	宮城県本吉郡南三陸町
活動内容	東日本大震災で支援活動に入っていた沖縄那覇駐屯の陸上自衛隊により仮設住宅の子どもたちに沖縄三線がもたらされ、また津波により西表島に漂着した南三陸町歌津地区の郵便ポストがアーティストBIGINの支援により帰還。以後地区の復興夏祭りへの支援につながった。震災によるご縁で生まれた東北初の沖縄音楽を「新しい音楽文化」ととらえ、一方向の支援から双方向の関係性づくりをめざし、まちづくりに寄与する各種事業を展開。



活動名	こどもアートひろば
実施団体	公益財団法人仙台市市民文化事業団（宮城県）
実施場所	宮城県仙台市
活動内容	市民協働のアートプロジェクトで定評のあるアーティスト KOSUGE1 16（車田智志氏、土屋亨氏）の作品シリーズ「The Playmakers」（パペットと遊び場をつくる参加型インスタレーション）を仙台市地下鉄東西線国際センター駅に展開、実施。



活動名	「311 ドキュメンタリーフィルムアーカイブ」プロジェクト 2016 3.11 映像記録のこれまで、これから
実施団体	認定 NPO 法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭（山形県）
実施場所	山形県山形市
活動内容	山形市市制施行 100 周年記念事業として 1989 年より始まった映画祭。東日本大震災をきっかけに震災関連の作品が多く集まり、以降上映会を継続的に実施。2014 年より「311 ドキュメンタリーフィルム アーカイブ」プロジェクトをスタートさせ、震災記録映画の収集・保存管理・情報発信に努め、積極的に上映活動を行う。



活動名	プロジェクト FUKUSHIMA !
実施団体	特定非営利活動法人プロジェクト FUKUSHIMA（福島県）
実施場所	福島県福島市、いわき市、東京都豊島区、千代田区、北海道札幌市
活動内容	東日本大震災をきっかけに、音楽家・大友良英、遠藤ミチロウ、詩人・和合亮一を代表に、有志により 2011 から毎年開催されているフェスティバル。今の福島を生きる人々が、芸術・文化による震災復興を通して新しい表現を生み出し、福島を世界に向けて文化発信する。特に 2013 年より始めた新しいスタイルの盆踊りは福島発信の文化として全国各地で連携実施。



活動名	KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭
実施団体	茨城県北芸術祭実行委員会（茨城県）
実施場所	茨城県日立市・常陸太田市・高萩市・北茨城市・常陸大宮市・大子町 内各所
活動内容	茨城県の県北の豊かな自然と独自の歴史・文化や地場産業等を舞台に、初開催された現代アート展。森美術館館長の南條史生氏を総合ディレクターに迎え、地域資源の持つ潜在的な県北の魅力をアートを通じて引き出し、地域の活性化を図りながら、新たな価値を生み出す。



活動名	さいたまトリエンナーレ 2016
実施団体	さいたまトリエンナーレ実行委員会（埼玉県）
実施場所	埼玉県さいたま市
活動内容	さいたま市で初開催された芸術祭。国内外で先進的な活動を展開するアーティスト 34 組を招聘、市に滞在する中で、「未来の発見！」というテーマのもと、市民と交流しながら遊休施設や屋外空間を活用して多彩なアートプロジェクトを与野本町駅～大宮駅周辺、武蔵浦和駅～中浦和駅周辺、岩槻駅周辺を中心に展開。
 	
（左）大友良英＋Asian Music Network 《Ensembles Asia Special》（2016）photo：KUTSUNA Koichiro, Arecibo（右）アイガルス・ピクシェ 《さいたまビジネスマン》（2016）	

活動名	東京修学旅行プロジェクト
実施団体	PortB（東京都）
実施場所	東京都
活動内容	「修学旅行」という形式を使い、現在進行形のアジア地域の交流を演劇的に体験できるプロジェクト。リサーチャーが、タイ・台湾・インドネシア各国から東京への修学旅行についてリサーチし、学び、交流し、関係をつくりながら理想の修学旅行コースを設定し、地図を作成する。参加者は実際にコースをたどることで、その地図に反映された国の歴史や文化や宗教を自身の身体を通して学ぶとともに、東京が持つ多様な魅力を知ることになる。
 	

活動名	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2017
実施団体	特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センター（神奈川県）
実施場所	神奈川県横浜市
活動内容	1995 年に「芸術見本市」としてスタートした舞台芸術に取り組むプロフェッショナルの実践とコミュニケーション促進のためのプラットフォーム。主催する演劇・ダンス・音楽の公演プログラムの実施、主催・提携する参加者が交流するためのプログラム、国内外のプロデューサーやフェスティバル・ディレクターとの個別面談やシンポジウム等さまざまなプログラムを展開。
 	

活動名	つくることは生きること震災《 明日の神話 》展
実施団体	ARTS for HOPE （東京都）
実施場所	神奈川県川崎市
活動内容	“立ち上がるためのアート”“乗り越えるためのアート”の象徴的な作品として、原爆を受けてもなお人間が未来を切り開き立ち上がる姿を描いた岡本太郎の《明日への神話》の展示。それとあわせて被災地出身者が主体の アーティスト作品と東北・熊本の一般の人々の作品とメッセージを展示した。
	

活動名	KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2016 AUTUMN
実施団体	京都国際舞台芸術祭実行委員会 （京都府）
実施場所	京都府京都市
活動内容	国内外から集う先駆的な舞台表現を京都で集中的に上演し、新しい文化潮流を生み出すことで国内へインパクトを与え、世界に発信。公式プログラムは 12 のアーティストによる 15 演目を 2016 年 1 月にリニューアルしたロームシアター京都（旧京都会館）のオープニング事業の一環として実施。
	

活動名	地域に根ざした創造活動拠点の実験 2016-2017
実施団体	ブレーカープロジェクト実行委員会（大阪府）
実施場所	大阪府大阪市西成区
活動内容	既存の枠組みに捉われず、アーティストとともに、地域とかかわり合いながらまちの中に創造の現場を生み出し「芸術と社会の有効な関係」を再構築していく取り組み。2003 年より浪速区・新世界周辺からスタートし現在は西成区を 拠点に活動。今回は廃校になった小学校跡地を活用し、きむらとしろうじんじん、ブブ・ド・ラ・マドレーヌ等のアーティストと地域がともに創造の場をつくっていく創造的社会的実験などいくつかの事業を実施する。
	

活動名	六甲ミーツ・アート芸術散歩 2016
実施団体	六甲山観光株式会社（兵庫県）
実施場所	兵庫県神戸市六甲山上
活動内容	2010 年より毎年、六甲山上エリアで開催される現代アートの展覧会。主に野外の作品展示を通じて六甲山上を散歩しながら豊かな自然とともに歴史や文化に触れ、土地の魅力を体感する。招待および公募から審査により選ばれたアーティストが六甲山の自然・景観・歴史・文化を生かし、エリアの魅力を引き出す作品を展示。
 	

活動名	なら国際映画祭 2016
実施団体	特定非営利活動法人なら国際映画祭実行委員会（奈良県）
実施場所	奈良県奈良市
活動内容	世界の映画人を招聘し日本の新人監督の育成や国際交流を目的とする国際映画祭。作品上映だけでなく若手監督に奈良を舞台にした映画制作を依頼し、その作品を映画祭でプレミア上映する活動や、新人監督のコンペティション、映画観客以外にも楽しめる「ならアートナイト」など実施する。
 	

活動名	岡山芸術交流 2016
実施団体	岡山芸術交流実行委員会（岡山県）
実施場所	岡山県岡山市
活動内容	岡山城、後楽園を中心とした歴史・文化ゾーンをメイン会場とし、世界 16 カ国 31 組のアーティストのオリジナル作品を展示する現代芸術の展覧会を実施。アーティスト・ディレクターにニューヨークに活動拠点を置く現代アーティストのリアム・ギリック氏、総合ディレクターにギャラリストの那須太郎氏、総合プロデューサーに現代アートのコレクターである石川康晴氏を迎え、3 年ごとに開催するトリエンナーレ実施をめざす。
 	

活動名	カシューナッツ 12 帖演劇祭
実施団体	SASHIYORI Art Revival Connection KUMOMATO （熊本県）
実施場所	熊本県熊本市
活動内容	熊本市の健軍商店街に隣接するアトリエ花習会で行われる小さな演劇祭。1 カ月の会期中の週末ごとに各地より集まった作品を上演し、アーティストの交流も実施する。今年は熊本地震発災により商店街は完全に倒壊し大きく被害を受けた。その状況下でアートによる復興をめざし、一つでも多くの笑顔が生まれるために演劇祭を開催。
 	

第2回採択活動（期間：2017年7月1日～2018年3月31日）

採択件数：20 活動

活動名	札幌国際芸術祭 2017
実施団体	札幌国際芸術祭実行委員会（北海道）
実施場所	北海道札幌市
活動内容	札幌市で行われる多様なジャンルを交えた国際芸術祭。現代美術だけでなく、デザインや音楽、テレビといったさまざまなジャンルを扱い、展示、パフォーマンスやライブイベント、市民参加型のプロジェクトなど多岐にわたるプロジェクトを実施。札幌の特性である「都市」の魅力と隣接する豊かな「自然」を感じられるような会場を設定し、札幌の魅力を顕在化、国際発信する。
 	

活動名	ヒューマンセレブレーション 三陸国際芸術祭 2017
実施団体	NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク（京都府）
実施場所	青森県八戸市、岩手県大船渡市
活動内容	文化芸術による復興と新たな芸術文化の創出を目的に、三陸沿岸の風土と歴史から生まれ、生活に寄り添う芸術“郷土芸能”の紹介、三陸の人々が主体となるダンス・演劇作品の創作・発表を行う。郷土芸能の魅力の再発見と内外への周知を果たすだけでなく、表現活動をととしてコミュニティがより強固になり豊かな地域生活を築くことを提唱する。
 	

活動名	なつかしい未来創造事業アーティスト・イン・レジデンスプログラム（陸前高田 AIR） 2017
実施団体	なつかしい未来創造株式会社（岩手県）
実施場所	岩手県陸前高田市、角田市、東京都、フィリピン・マニラ、イギリス・ロンドン、オーストラリア・シドニー
活動内容	国内外のアーティストを陸前高田市に招へいし、アーティストのリサーチや表現活動によって地元資源を活用した新たな価値を創造し、暮らす人々に生きる力を与えることを目的に行われるアーティスト滞在型事業。国内外の AIR プログラムやアート事業者とのネットワークを通じた共同事業を展開し、現在の陸前高田および被災地の状況を発信し、リサーチャーや被災地観光等を中心とした人々の往来を促進する。
	

活動名	川俣正／仙台インプログレス
実施団体	公益財団法人 仙台市市民文化事業団（宮城県）
実施場所	宮城県仙台市沿岸部にある貞山運河沿いの集落、宮城野区岡田の新浜町内エリア
活動内容	明治に造られた町内に流れる『貞山運河』の海側に渡るための人道橋となる作品「みんなの橋」制作に向け、住民との交流を通じたリサーチを実施する。作品の完成は 2018 年度を目標としている。震災後の生活再建に際し、地域住民の交流の拠り所となっていた「みんなの家」を拠点とし、橋の形状などを検討するワークショップを開催。
	

活動名	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 震災特集プログラム「ともにある Cinema with Us 2017」
実施団体	認定 NPO 法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭（山形県）
実施場所	山形県山形市
活動内容	山形国際ドキュメンタリー映画祭の中で、東日本大震災に関する記録映画の上映とその収集・保存・アーカイブについて考えるディスカッションプログラムを 4 日間実施。記録映画だけでなくテレビ番組や劇映画まで視野を広げ、新作・旧作作品を上映し、参加者と議論し震災・復興の実情と映像を通じたその共有のあり方について考える。
	

活動名	プロジェクト FUKUSHIMA !
実施団体	特定非営利活動法人 プロジェクト FUKUSHIMA (福島県)
実施場所	福島県福島市
活動内容	福島からの文化発信を基軸に、「福島大風呂敷」やオリジナルの盆踊り、プロフェッショナルなミュージシャンも一般市民も混在するオーケストラ FUKUSHIMA!の活動を組み合わせ、自分たちの手で祭りの場をつくる「フェスティバル FUKUSHIMA!」を柱にプロジェクトを展開。学びの場をつくる「スクール FUKUSHIMA!」やインターネット放送「DOMMUNEFUKUSHIMA!」など多様な広がりのある活動を年間を通して行う。
 	

活動名	中之条ビエンナーレ 2017
実施団体	中之条ビエンナーレ実行委員会 (群馬県)
実施場所	群馬県中之条町
活動内容	若手作家より発案され始まった芸術祭。一般公募によって選出された国内外の作家と、海外交流企画として招聘された作家が中之条町内の廃校や空き店舗などに現代アート作品を展示する。運営は作家と行政、地域住民が共同で行っており、作品制作や準備段階から地域住民が積極的にかかわっている。
 	

活動名	「世界ゴールド祭」キックオフ！
実施団体	公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 (埼玉県)
実施場所	埼玉県さいたま市
活動内容	2019 年に開催予定の高齢者舞台芸術の国際フェスティバルに向けた基盤を築くためのプレフェスティバル。海外の先行事例を紹介するワークショップやシンポジウムを開催することで、高齢社会に対して舞台芸術及び劇場が果たす意義を社会に広く知らしめ、理解を促すことを目的としている。
 	

活動名	新宿発信！欧州人形劇の旅「世界の人形劇の交差点」
実施団体	有限会社ブーク人形劇場（東京）
実施場所	東京都渋谷区代々木、大島町、北海道札幌市、砂川市、香川県東かがわ市、愛知県名古屋市、長野県飯田市、広島県三次市
活動内容	国際性の高い人形劇作品を全国 8 都市と伊豆大島をめぐる循環公演として全国に発信する国際交流事業。海外から芸術家を招聘するだけでなく、国際的に活躍する人形劇作家集団と日本の芸術家とともに滞在型の創造活動を行うことにより、人形でしか表現できない舞台表現作品を共同制作・公演を実施
	

活動名	ヨコハマトリエンナーレ 2017「島と星座とガラパゴス」
実施団体	横浜トリエンナーレ組織委員会（神奈川県）
実施場所	神奈川県横浜市
活動内容	横浜で 3 年に 1 度行われる現代アートの国際展。「アートでひらく」「世界とつながる」「まちにひろがる」を目標とし、横浜から世界に向けた新しい価値観と文化を発信することを目指す。また、第 6 回目となる本年は「島と星座とガラパゴス」をテーマに、先行きの見えない複雑な時代に、人間の想像力・創造力をもって、未来への知恵を多くの人々とともに考える。
	

活動名	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2018
実施団体	特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センター（神奈川県）
実施場所	神奈川県横浜市
活動内容	舞台芸術に取り組むプロフェッショナルの実践とコミュニケーションを促進するための国際的プラットフォーム（通称 TPAM）。演劇・ダンス・音楽の主催公演プログラム「TPAM ディレクション」や、TPAM の参加者がテーマを設定しミーティングを主催するプログラムなど、多様なかたちで双方向のコミュニケーションと相互理解のためのプログラムを実施している。
	

活動名	国際北陸工芸サミット
実施団体	富山県
実施場所	富山富山市、高岡市、南砺市
活動内容	「KOGEI」の魅力を世界に発信するため、国際的な工芸展を開催するだけでなく「国際北陸工芸アワード」（仮称）を開催し、応募者のデザインやコンセプトをもとに、工芸士やメーカーとのコラボレーションで作品を制作するという新たなアワードを創設。この活動により、北陸に「工芸分野の先進的な文化芸術創造拠点」を形成することを目指す。
 	

活動名	「信濃の国 原始感覚美術祭 2017ーみちのくまつり」と「旅する原始感覚」
実施団体	原始感覚美術祭実行委員会（長野県）
実施場所	長野県大町市、スウェーデン
活動内容	原始感覚をキーワードに、ジャンルを越えた表現者を招へいし、木崎湖畔で滞在制作を行う芸術祭。2017 年は市民が自主的に企画を行い、海外から訪れるマレビトとしてのアーティストと訪れる人すべてがともに祭りをつくりあげる。また「旅する原始感覚」では、海外のアートプロジェクトのフィールドワークを行い、ネットワークを構築する。
 	

活動名	「写真の町シバタ 2017」
実施団体	写真の町シバタ・プロジェクト実行委員会（新潟県）
実施場所	新潟県新発田市
活動内容	新潟県新発田市の市民有志による地方文化プロジェクト。「写真の町シバタ」と題し、展示、講座、ワークショップ等のイベントを 1 か月間にわたって開催。明治期以降連隊駐屯地として栄え写真文化が根づいたことから、市井の方々の写真を提供していただき展示することで、まちの魅力を発見・継承・発展させ、まちと市民の活力に還元することを目的に活動する。
 	

活動名	KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2017
実施団体	京都国際舞台芸術祭実行委員会（京都府）
実施場所	京都府京都市
活動内容	国内外から集う先駆的なアーティストとの新作を共同制作し、国際的な舞台芸術のハブとして新しい文化潮流を生み出すことで、日本の舞台芸術に大きなインパクトを与えとともに、現代の日本の舞台芸術シーンを世界に向けて発信することを目的とした舞台芸術祭。2011 年より継続的に開催され、2017 年は「内なる他者との出会い」をテーマに、未来の社会を人々とともに思い描く契機となることを目指す。
 	

活動名	鉄道芸術祭 vol.3 松岡正剛プロデュース「上方 46 景～言葉・本・名品による展覧会～」
実施団体	アートエリア B 1（大阪府）
実施場所	大阪府大阪市（京阪電車なにわ橋駅地下 1 階・アートエリア B 1）
活動内容	“鉄道”にある車両や路線図、列車が走る線路や駅舎・ホームなどの先進的な技術や魅力、そこにまつわる文化や歴史など、鉄道の創造性に着目し、駅のコンコースを拠点に行う「鉄道芸術祭」。2010 年より毎年実施され、本年は「鉄道と身体感覚」をテーマに展覧会およびさまざまなプログラムを展開。
 	

活動名	港都 K O B E 芸術祭
実施団体	港都 K O B E 芸術祭実行委員会（兵庫県）
実施場所	兵庫県神戸市（各所）
活動内容	神戸港を舞台にした芸術祭。「時を刻み、豊かな広がりへ」をテーマとし、アートを通じて「神戸港」という資源の魅力発信とにぎわいの創出を目指す。「アート鑑賞船」から作品を鑑賞する「海上アート展」や、港の玄関口となるターミナル施設等を活用した作品の展示など、神戸港と神戸のまちを活かした展示を展開。
 	

活動名	「ベップ・アート・マンス 2017」及び「西野 達 inBEPPU」
実施団体	「混浴温泉世界」実行委員会（大分県）
実施場所	大分県別府市（各所）
活動内容	「ベップ・アート・マンス」は別府で催されるさまざまな文化事業を紹介し、開催を支援する登録型のプラットフォーム事業。展覧会、公演、参加体験型イベントなどさまざまな活動に支援を行う。また、「西野 達 inBEPPU」は西野達氏が別府を訪れ得たインスピレーションをもとに、多くの市民の協力のもと作品を実現するプロジェクト。「ベップ・アート・マンス」の目玉として行う企画である。
 	

活動名	熊本城×特撮美術 天守再現プロジェクト
実施団体	公益財団法人熊本市美術文化振興財団（熊本県）
実施場所	熊本県熊本市（熊本市現代美術館）
活動内容	熊本城の天守およびその周りに広がる街並みを 1/20 スケールで再現する展覧会。市民とともに熊本城と町の未来像を思い描くこと、また県外からの来場者には熊本城の魅力を感じてもらうことを目指す。展覧会では、熊本城の地震後の復旧作業を機に得られた新たな歴史的・建築学的な知見も伝えることで、熊本城の魅力を掘り下げた形で発信。
 	

活動名	カシューナッツ #3 12 帖演劇祭
実施団体	SASHIYORI Art Revival Connection KUMOMATO（熊本県）
実施場所	熊本県熊本市（各所）
活動内容	熊本市で行われる演劇祭。会期中各地より集まった作品をアトリエ花習舎にて上演するだけでなく、健軍商店街でのフラッシュモブや、東北で活動している演劇団体との文化交流も行う予定。熊本市の町のにぎわいを創出し、熊本に元気、笑顔を届けるために開催。
 	

第3回採択活動（期間：2018年4月1日～2019年3月31日）

採択件数：16 活動

活動名	飛生芸術祭
実施団体	飛生アートコミュニティ（北海道）
実施場所	飛生アートコミュニティ、旧謡内旅館と白老駅前周辺
活動内容	廃校後、荒れ果てた小学校の裏の森を整備して、再び人々や鳥たちが集える場所をつくる「アートと森が共存する森づくり」をきっかけに始まった芸術祭。森を中心に、地域住民とアーティストが参加しつながら野外展示作品の制作「飛生の森づくりプロジェクト」をはじめ、招聘アーティストの作品展示や上演を実施。
 	

活動名	ヒューマン・セレブレーション 三陸国際芸術祭 2018
実施団体	NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク（京都府）
実施場所	宮城県気仙沼市、青森県八戸市、岩手県大船渡市、釜石市、福島県いわき市、東京都
活動内容	文化芸術による復興と新たな芸術文化の創出を目的に、三陸沿岸の風土と歴史から生まれ、生活に寄り添う芸術「郷土芸能」の紹介と三陸の人々が主体となるダンス・演劇作品を創作・発表。郷土芸能の魅力の再発見と内外への周知を果たすだけでなく、表現活動を通して強固なコミュニティと豊かな地域生活を築くことを提唱する。
 	

活動名	川俣正/仙台インプログレス・新浜
実施団体	公益財団法人 仙台市市民文化事業団（宮城県）
実施場所	宮城県（貞山運河、新浜みんなの家、せんだいメディアテーク）
活動内容	世界各地で住民との協働を数多く展開してきたアーティスト川俣正氏による震災を受けた仙台で復興と向き合っていくためのプロジェクト。明治期に造られた町内に流れる「貞山運河」を海側に渡るための人道橋となる作品「みんなの橋」を数年かけて制作。
 	

活動名	プロジェクト FUKUSHIMA !
実施団体	特定非営利活動法人 プロジェクト FUKUSHIMA（福島県）
実施場所	福島県福島市
活動内容	福島からの文化発信を基軸に、「福島大風呂敷」やオリジナルの盆踊りと、プロフェッショナルなミュージシャンと一般市民が混在するオーケストラ FUKUSHIMA!の活動を組み合わせ、自分たちの手で祭りの場をつくる「フェスティバル FUKUSHIMA!」を柱にプロジェクトを展開。学びの場をつくる「スクール FUKUSHIMA!」やインターネット放送「DOMMUNE FUKUSHIMA!」など多様な広がりのある活動を年間を通して実施。
 	

活動名	世界ゴールド祭
実施団体	公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団（埼玉県）
実施場所	彩の国さいたま芸術劇場 ほか
活動内容	世界各国のアーティスト、専門家、舞台芸術を实践する高齢者たちが埼玉に集い、発展的かつ持続可能な展開を目指して相互に学び、課題や知識を共有するプラットフォーム形成を目指し、国内外に向けて高齢社会の豊かな可能性を発信していく。高齢化が喫緊の社会課題である欧州・アジアの4カ国（日本、英国、豪州、シンガポール）における先進的な活動を、各国の高齢者による舞台公演「さいたまゴールド・シアター」と日英の演出家との共同制作、専門家によるシンポジウムやワークショップ等を通して紹介。
 	

活動名	新宿発信！世界の人形劇の旅「アート体験！国際フェスティバル」
実施団体	有限会社 プーク人形劇場（東京都）
実施場所	プーク人形劇場ほか
活動内容	世界最大のターミナル・新宿駅に直結する新宿高島屋 1 階 JR 口特設会場に、世界的な芸術家を複数同時に招へい。日本人アーティストと協働し、人形劇・パントマイム・大道芸・日本伝統芸能等の芸術体験をあらゆる人々が参加できる国際的文化交流スポットを出現させ、「新宿！体験アート国際フェスティバル」を開催。また招へいするチェコ・ピルゼン市の「アルファ劇場」による本格大型作品「三銃士」は都内 3 会場、全国 7 都市のツアー公演を実施。
 	

活動名	Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018
実施団体	横浜アーツフェスティバル実行委員会（神奈川県）
実施場所	横浜市内全域(横浜の「街」そのものが舞台)
活動内容	「横浜らしさ」が発揮される横浜の「街」そのものを舞台としたダンスフェスティバル。世界のトップレベルのプロダンサーによる公演にはじまり、公募の市民ダンサーや子どもたちを対象としたワークショップなどの市民参加事業まで、幅広いプログラムが多数展開され、期間中は横浜のまち全体がダンス一色に染まる。
 	

活動名	水と土の芸術祭 2018
実施団体	水と土の芸術祭 2018 実行委員会（新潟県）
実施場所	新潟県新潟市
活動内容	信濃川と阿賀野川という二つの大河が運ぶ「水と土」から生まれた新潟の豊かな暮らしと文化を掘り起こし、先人たちが不屈の精神と創造性を発揮し、水との闘いの中でつくり上げてきた新潟市の成り立ちを見つめ直し、未来を考えるきっかけとしたいという思いが込められている国際芸術祭。「水と土の文化創造都市」を推進する。
 	

活動名	無人駅アートプロジェクト
実施団体	特定非営利活動法人 クロスメディアしまだ（静岡県）
実施場所	静岡県（大井川鐵道無人駅各駅）
活動内容	静岡県の島田市から川根本町に路線を有する大井川鐵道は島田市にある 13 駅中 8 駅が無人となっている。その無人駅を作品制作及び発表の中核とし、「無人と呼ばれる場に息づく人々の姿」をテーマに、地域が有する記憶や風景、営みを国内外から公募し選定・推薦されたアーティストが表現する。地域づくりの新たな取り組みとして実施するアートプロジェクト。
 	

活動名	京都:Re-Search
実施団体	京都:Re-Search 実行委員会（京都府）
実施場所	京都府
活動内容	アーティスト、工芸家、デザイナー、建築家などクリエイティブな分野で活動している人が京都府内市町村に滞在しながら、各自が設定したテーマに沿って、地域の風土や歴史を調査し、そこでの発見を生かしたアートプロジェクトや作品プランを構想する。
 	

活動名	Breaker Project 作業場@旧今宮小学校
実施団体	ブレーカープロジェクト実行委員会（大阪府）
実施場所	大阪府
活動内容	廃校を活用したものづくりの場としての「作業場」を実施。また、プロジェクトの次なるフェーズとして、福祉、教育、環境、食、まちづくりなど多様な領域との連携・協働の仕組みをつくり、アーティストや地域住民らと創造活動を行う。
 	

活動名	六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2018
実施団体	六甲山観光 株式会社（兵庫県）
実施場所	兵庫県(六甲ガーデンテラス、六甲鉱山植物園、六甲オルゴールミュージアムなど六甲山上 10 施設)
活動内容	アート作品自体の魅力を伝えることはもちろん、それに加えて六甲山の持つ豊かな自然環境及び、眺望、夜景、歴史、文化等のさまざまな魅力や、知られざる潜在的な価値等を現代アートを通じて、体験・体感していただく展覧会。また、一部作品を公募することで今後の活躍が期待されるアーティストの発掘にも力をいれている。
 	

活動名	平和の舞ーひろしま神楽とく"オロチ"神楽とオーケストラの協演＞
実施団体	広島市文化協会（広島県）
実施場所	広島県広島市（JMS アステールプラザ大ホール）
活動内容	2020 年のオリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、広島県民・市民の共有の財産である伝統神楽「ひろしま神楽」と創作神楽「"オロチ"火と水への讃歌ー神楽とオーケストラのために」（ひろしま神楽と広島交響楽団のコラボレーション）の公演を広島市、廿日市市、安芸高田市、三原市、安芸太田町、北広島町の 6 市町合同で実施。神楽による鎮魂と奉納を原意にひろしまから平和への希求を世界に向けて発信する。
 	

活動名	神山アーティスト・イン・レジデンス 2018
実施団体	神山アーティスト・イン・レジデンス実行委員会（徳島県）
実施場所	徳島県名西郡神山町
活動内容	国内外からアーティストを招へいし、作品制作、住民との交流を行うとともに、アートを生かした町の活性化へとつなげる。2018 年度はこれまでに神山 AIR に参加したアーティストを再招へいし、その後の制作活動や神山での滞在制作がもたらした影響を検証するトークイベントを開催。長期にわたり継続してきた神山 AIR の成果を共有し、今後の方向性についても熟考する場とする。
 	

活動名	「ベップ・アート・マンス 2018」及び「アニッシュ・カプーア in BEPPU」
実施団体	「混浴温泉世界」実行委員会（大分県）
実施場所	大分県別府市（各所）
活動内容	「ベップ・アート・マンス」は別府で催される展覧会や公演、参加体験型イベントなど、さまざまな文化事業を紹介し、開催を支援する登録型のプラットフォーム事業。市民の主体的な参画を促進する。また、「アニッシュ・カプーア in BEPPU」は、アニッシュ・カプーア氏の国内では初の本格的な個展となり、新作を含む 3～4 点を展示。「inBEPPU」では毎年選抜されたアーティストの個展を開催し、質の高い芸術作品を市民が触れられるようにしている。
 	

活動名	水郷ひた芸術文化祭 2018 大巻伸嗣個展「SUIKYO」
実施団体	第 33 回国民文化祭、第 18 回全国障害者芸術・文化祭日田市実行委員会（大分県）
実施場所	大分県日田市
活動内容	「国民文化祭おおい」開催にともない、全 18 市町村の独自性を生かした連携企画として実施。日田市においては、国際的に活躍する大巻伸嗣氏のインスタレーション展示をリーディング事業と位置づけ、天領地であった特殊な歴史的背景と、山に囲まれた盆地と、多くの河川が流れ込む「水郷」を形成する地域性から、「水の森」をテーマに市民参加型のアートプロジェクトを展開。
 	

第4回採択活動（期間：2019年4月1日～2020年3月31日）

採択件数：16 活動

活動名	三陸国際芸術祭 2019
実施団体	三陸国際芸術推進委員会（岩手県）
実施場所	岩手県大船渡市、宮古市、釜石市、青森県八戸市の各所
活動内容	数多くの郷土芸能が伝承されている三陸地域から国内外へその魅力を発信し、同時にアジアの芸能や現代美術との交流の機会を設けている。大きな被害を受けた東日本大震災から、文化芸術の魅力を活かした創造的な復興を目指し、国内外の芸能団体や現代アーティストによる公演を実施するほか、三陸地域の郷土芸能に関する情報を集約・記録し、国内外に発信するための整備を進める。
	

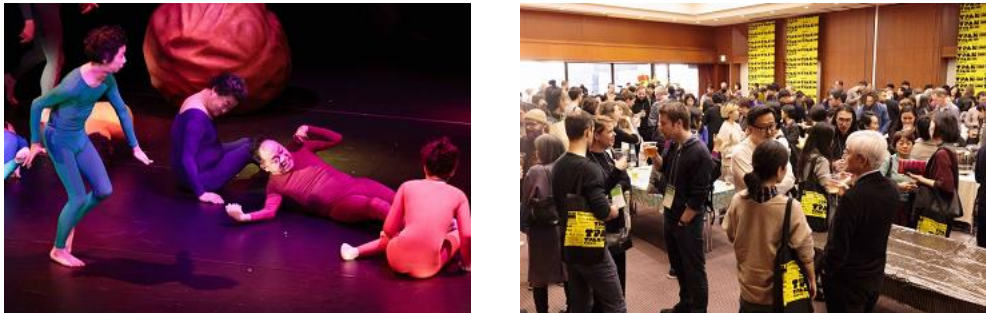
活動名	川俣正／仙台インプログレス 2019
実施団体	公益財団法人 仙台市市民文化事業団
実施場所	宮城県仙台市（貞山運河 新浜みんなの家 センダイメディアテーク）
活動内容	アーティスト川俣正氏による仙台市沿岸部（津波被災地）での長期プロジェクト。湾に沿って流れる「貞山運河」にかかる作品「みんなの橋」の制作に取り組みながら、地域の暮らしにつながるさまざまな活動を市民とともに実施。2019年は新たに「木道」を制作するほか、地域住民や郷土史研究グループなどに向け、運河界隈の将来の状況を構想するワークショップを開催し、広く関心を集めながら計画をブラッシュアップ。
	

活動名	中之条ビエンナーレ2019
実施団体	中之条ビエンナーレ実行委員会（群馬県）
実施場所	群馬県中之条町内全域
活動内容	一般公募による国内外作家と海外交流招聘作家が町内の廃校や空き店舗などに現代アート作品を展示。運営は作家と行政、地域住民が共同で行う全国でも珍しい地域芸術祭。観光客誘致や移住促進だけでなくとどまることなく、地域が持っている資源や技術を見直し、アートと地域の知恵が混じり合うことで、地域が新しい生活の捉え方を創造し、生きる基準を見出すことを目的とする。
 	

活動名	シアター・コモンズ'20
実施団体	シアター・コモンズ実行委員会（東京都）
実施場所	東京都港区
活動内容	演劇の「コモンズ＝共有知」を活用し、社会の「コモンズ＝共有地」を生み出すプロジェクト。東京ドイツ文化センター、アンスティチュ・フランス、台湾文化センター、オランダ大使館、NPO 法人芸術公社の協力連携により実施される国際文化事業。4 回目の開催となる今回は、「あらたな知覚と身体創造力」をテーマに、国内外のアーティストや研究機関とともに開発する 7 つのプログラムを実施。人間の知覚を拡張するとされる VR 技術や AI への疑問を単なる鑑賞にとどまらない、体験可能な仕組みをもつプログラムを通して実験を行い、成果を社会へ還元する試みを行う。
 	

活動名	世界の人形劇プラットフォームプロジェクト～「ネヴィル・トランターの世界」
実施団体	有限会社 プーク人形劇場（東京都）
実施場所	東京都新宿区、渋谷区、北海道札幌市、砂川市、長野県飯田市、香川県 東かがわ市、愛知県名古屋市、広島県三次市、
活動内容	世界人形劇界のトップスター、ネヴィル・トランター氏が主宰するオランダの人形劇団「スタッフド・パペット・シアター」を招聘し、全国 8 都市での国内ツアーを実施。また、ツアー各会場においてワークショップを開催する。言語の壁を越え、大人から子どもまであらゆる方が楽しめる表現芸術＝人形劇の魅力を、国内各地に広く届けることを目的としている。
 	

活動名	IAFT19/20
実施団体	Interdisciplinary Art Festival Tokyo（東京都）
実施場所	東京都小金井市
活動内容	tactileBOSCH（ウェールズ）、TURF（ロンドン）、Belfast（北アイルランド）、Performance KØkkenet（コペンハーゲン）を拠点とする4団体との共同企画。世界的に活躍するキュレーターとの共同キュレーションにより海外アーティストを招へい。今回はイギリスのバンド White Town のアルバムタイトル「Women in Technology」からインスパイアされた「Woman in ?????」をテーマに掲げ、アーティストの滞在制作および展示・パフォーマンスイベント、障がい者向けの制作ワークショップを実施。
	

活動名	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2020
実施団体	特定非営利活動法人 国際舞台芸術交流センター（神奈川県）
実施場所	神奈川県横浜市
活動内容	「国際舞台芸術ミーティング in 横浜（Performing Arts Meeting in Yokohama、略称 TPAM）」は、舞台芸術に取り組むプロフェッショナルの交流を促進するための国際的なプラットフォーム。2020 では、TPAM ディレクション（アジアと世界のコンテンポラリー・パフォーミング・アーツの最新動向を反映する主催公演プログラム）や TPAM エクスチェンジ（TPAM 参加者のネットワーキングを促進する交流プログラム）、TPAM フリンジ（TPAM 会期中に横浜や東京周辺で行われる作品を公募し紹介するプログラム）等を実施。
	

活動名	国際工芸アワードとやま
実施団体	富山県
実施場所	富山県富山市、高岡市、南砺市ほか
活動内容	将来を担う若き工芸人を対象に、工芸作品の表現・技術に加え、これまでの活動や工芸に対するビジョンを選考の対象とした新たなアワードの実施。その他、国際北陸工芸サミットと関連して、特色ある文化施設等を活用した若手工芸作家の作品展示や北陸の主要産地でのクラフトツーリズム、テーブルウェアフェスティバルへの北陸三県合同参加。
	

活動名	プレ・「表現未満、」フェス@たけし文化センター連尺町
実施団体	NPO 法人 クリエイティブサポートレッツ（静岡県）
実施場所	静岡県浜松市
活動内容	2000 年から「さまざまな人々がともに生きる社会」（ソーシャルインクルージョン）をめざし、障害者の存在そのものをアートによって顕在化させていく活動を実施してきた NPO が、長年蓄積してきた事業を一堂に会する展覧会を 2020 年のオリンピックイヤーに向けて開催。今回はそのプレイベントとして、特に発信性の強い音楽・パフォーマンス・映像関係を重点的に実施。
 	

活動名	あいちトリエンナーレ 2019
実施団体	あいちトリエンナーレ実行委員会（愛知県）
実施場所	愛知県名古屋市、豊田市
活動内容	「技」によって日本のモノづくり産業をリードし、都市であり地方である「愛知」を舞台に、「情の時代 Taming Y/Our Passion」をテーマとして、文化芸術団体や芸術大学等と連携した舞台公演や作品展示を行うほか、地域で活動する NPO 等と協働して、地域の文化芸術活動の活発化を図る。
 	

活動名	文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり
実施団体	東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス実行委員会（京都府）
実施場所	京都府京都市
活動内容	文化芸術による共生社会の実現を目指し、福祉・教育・医療等の施設や団体において、自発的に社会包摂型アートプログラムを展開できるための基盤づくりを目的とする。文化芸術の持つ力で、各施設における困難な状況が緩和・解決されることを目指すべく、①福祉施設等において文化芸術の取り組みを実施する際の相談窓口の開設、②モデル事業の実施、③コーディネーター人材の育成を軸に運営する。
 	

活動名	六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2019 (第 10 回記念展)
実施団体	六甲山観光 株式会社 (兵庫県)
実施場所	兵庫県神戸市灘区
活動内容	現代アートの作品を通じて、アート作品自体の魅力を伝えることはもちろん、六甲山の持つ豊かな自然環境及び、眺望、夜景、歴史、文化等の様々な魅力や、知られざる潜在的な価値等を来場者に感じ、楽しんでもらうことを目指す。2019 年は開催 10 回目の記念展として、過去最大の参加アーティスト数、新しい企画への取り組み等、内容を充実させ、祝祭感を加えて実施。
 	

活動名	岡山芸術交流 2019
実施団体	岡山芸術交流実行委員会 (岡山県)
実施場所	岡山県岡山市
活動内容	岡山城や後樂園などの歴史的文化遺産や公私立の文化施設など、岡山市に存在する施設のポテンシャルを活かしながら現代アート展を行うことで、新たな魅力を掘り起し、既存の文化の価値を高めていく。フランス、英国、米国、スイスなどの海外アーティストが制作したコンセプチュアルアートの国際展を開催するとともに、公民館等で出前講座や参加者同士で対話を交えたワークショップ等を開催。
 	

活動名	ひろしまトリエンナーレ 2020 in BINGO
実施団体	ひろしまトリエンナーレ実行委員会
実施場所	広島県
活動内容	2020 年に向けて、尾道市・福山市・三原市を舞台に現代アートの国際的な芸術祭を開催。「つくる。つなぐ。たのしむ。」をキーワードに『21 世紀のひろしま文化』を発信するため、県全体で芸術・文化に親しむ機会の創出に取り組んでいる。今回は 2020 年につなげるべく、尾道市・百島においてシュシ・スライマン、柳幸典、岩間賢、横谷奈歩らアーティストによる滞在型作品制作や各種レクチャー、ワークショップを期間中に実施。将来的にはさまざまな社会課題を抱える地域がアートのもつ力で活力を得て、地域の活性化にもつなげる。
 	

活動名	神山アーティスト・イン・レジデンス 2019
実施団体	神山アーティスト・イン・レジデンス実行委員会
実施場所	徳島県神山町
活動内容	国内外から招へいた現代アート、デザイン、建築などの分野で活躍する芸術家が滞在しながら作品を制作、展示する。地域住民との交流を通じ、過疎化が進む町に活気を生むことを目指し、アートを活かしたまちづくりを行っている。昨年スタートした、過去に参加したアーティストを再度招へいし、滞在制作を行う「Kick off KAIR2018」から発展させたプロジェクトとして、2019 年度は年間を通じた活動を目的としたプログラムをスタートさせた。
 	

活動名	「ベップ・アート・マンス 2019」および「関口 光太郎 in BEPPU」
実施団体	「混浴温泉世界」実行委員会
実施場所	大分県
活動内容	「ベップ・アート・マンス」は、別府で催されるさまざまな文化事業を紹介し、開催を支援する登録型のプラットフォーム事業。また、「関口 光太郎 in BEPPU」は、芸術祭「混浴温泉世界」の後継企画として、2016 年より始動した“個展”形式のアートプロジェクトで「ベップ・アート・マンス」の目玉事業として実施。新聞紙とガムテープによる小さな断片を素材に大きな構造物を制作する作家で、日常にありふれた素材によるその作品は、時として神話のような世界観を纏い独特の魅力を放つ。
 	

第5回採択活動（期間：2020年4月1日～2021年3月31日）

採択件数：3 活動

活動名	飛生芸術祭 2020「僕らは同じ夢をみる」
実施団体	飛生アートコミュニティ
実施場所	北海道
活動内容	「森づくり」と「芸術祭」を柱に活動する飛生アートコミュニティの活動を通して目的としている「人とアートと森が共生する森づくり」と「アートを主体とした緩やかなコミュニティづくり」「アートを通して町と関わること」の延長線上に存在する「芸術祭」。活動地域となる白老町は人口 17,000 人規模の小さな町で少子高齢化、孤立、教育格差、商店街の衰退など、多くの現代社会共通の課題を抱えるが、アートの力が地域を幸せにするという思いが根底にあり、「白老＝アート」という認識は町外にも広がり始めている。
 	

活動名	あいづまちなかアートプロジェクト
実施団体	あいづまちなかアートプロジェクト実行委員会
実施場所	福島県会津若松市
活動内容	会津が誇る文化資源である「漆」をテーマとした「会津・漆の芸術祭」と福島・会津ゆかりの芸術文化をテーマとした「まちなかピナコテカ」の 2 つを柱としたアートプロジェクト。まちなかの歴史的建造物や蔵、公共施設などを展示会場として活用し、2013 年から毎年 10 月の 1 カ月間開催。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により開催が危ぶまれたが、全国の漆芸大学の学生や教員、地元作家、関係者等の協力を得て事業を実施。
 	

活動名	『ベップ・アート・マンス 2020』および『梅田哲也 イン 別府』
実施団体	混浴温泉世界実行委員会
実施場所	大分県別府市
活動内容	文化や地域活動に対する市民の主体的な参画を促進し、別府市における芸術文化の振興、活力あふれる地域の実現を目的として、企画立案から実現に向けてサポートし、クリエイティビティの高い人材を育成・支援することを目指す市民文化祭『ベップ・アート・マンス』。国際的に活躍する1組のアーティストによる、地域性を活かしたアートプロジェクトである個展形式の芸術祭『in BEPPU』では音楽・美術・舞台芸術など分野を横断しながら国内外で活躍する梅田哲也を招へい。2つの芸術祭を新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じたうえで、オンラインも活用しながら実施。
 	

ネットワーク形成と交流

S O M P O アート・ファンドの特徴の一つである助成団体のネットワーク形成を目的に、「ネットワークミーティング」を開催しました。全国各地の助成活動に携わる人たちが一同に介し、各活動をプレゼン形式で報告し、お互いを知る機会となります。活動を運営していくうえでの課題を共有しあいながら、次の活動に向けてのヒントを得る場になり、新たな出会いにより活動の幅が広がるなど、助成金だけではないさまざまな付加価値を創出しました。

■2017年3月22日(水) 会場：損保ジャパン（株）本社ビル2階大会議室

第1回助成活動報告会 18 活動・団体、全 29 名参加

ゲスト：

公益財団法人セゾン文化財団 常務理事 片山正夫氏
共立女子大学文芸学部准教授 社会学者 吉澤弥生氏

- ・助成活動プレゼンテーション（報告）
- ・グループディスカッション

テーマ：アートプロジェクトの意義・価値を高めるためにはどうしたらよいのか？— S O M P O アート・ファンド助成活動の実施をとおして—

- ・質疑応答
- ・交流会

■2017年6月7日(水) 会場：損保ジャパン（株）日本橋ビル2階 会議室

第2回助成活動キックオフミーティング 20 活動・団体、全 31 名参加

- ・活動開始にあたり（オリエンテーション）
- ・損保ジャパンとの連携について
- ・質疑応答

■2018年2月27日(火) 会場：損保ジャパン（株）本社ビル2階大会議室

第3回助成活動キックオフミーティング 16 活動・団体、全 20 名参加

- ・損保ジャパンの文化・芸術の取組み [損害保険ジャパン（株） C S R 室 リーダー 金井 圭]
- ・損保ジャパンとの連携 [損害保険ジャパン（株） C S R 室 特命課長 山下智也]
- ・活動開始にあたり（オリエンテーション）
- ・質疑応答

ネットワーク・ミーティング 2018

第2回助成活動報告会 30 活動・団体、全 39 名参加（第3回助成団体参加者含む）

ゲスト：共立女子大学文芸学部准教授、社会学者 吉澤弥生氏

- ・挨拶 [損害保険ジャパン（株） C S R 室 リーダー 佐々木美絵]
- ・第2回助成活動プレゼンテーション（報告）
- ・質疑応答
- ・交流会

■2019年3月5日(火) 会場：損保ジャパン（株）本社ビル2階大会議室

第4回助成活動キックオフミーティング 16 活動・団体、全 27 名参加

- ・損保ジャパンの文化・芸術の取組み〔損害保険ジャパン（株） CSR 室 リーダー 佐々木美絵〕
- ・損保ジャパンとの連携〔損害保険ジャパン（株） CSR 室 石橋靖子〕
- ・活動開始にあたり（オリエンテーション）
- ・質疑応答

ネットワーク・ミーティング 2019

第3回助成活動報告会 26 活動団体、全 40 名参加（第4回助成団体参加者含む）

ゲスト：

NPO 法人 BEPPU PROJECT 代表理事、アーティスト 山出淳也氏

株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術・文化プロジェクト室 主任研究員 大澤寅雄氏

- ・挨拶〔損害保険ジャパン（株） CSR 室長 越川志穂〕
- ・第3回助成活動プレゼンテーション（報告）
- ・ゲストコメント
- ・質疑応答
- ・交流会

■2020、2021 年は新型コロナウイルス感染拡大のため実施せず。

<2018 年開催の様子>





助成団体の声

～S O M P O アート・ファンドの支援を受けて～

**「カシューナッツ 12 帖演劇祭」、「カシューナッツ#3 12 帖演劇祭」
／SASHIYORI Art Revival Connection KUMAMOTO**

[第 1・2 回助成]

熊本市東区健軍町にあったアトリエ花習舎と商店街を舞台とした「カシューナッツ 12 帖演劇祭」に 2 年間、助成いただきました。花習舎（カシューシャ）で開催する演劇馬鹿（ナッツ）たちが企画する、演技面が 12 帖の小さなアートフェスティバルです。熊本県「新たな芸術文化発掘事業」に採択され、平成 27 年秋、マチで気軽に楽しめる演劇祭としてスタートしました。

平成 28 年も勿論、開催予定でした。しかし、予期せぬ熊本地震。「アートの出番はきっと来る」と信じて、本震 10 日後にクラウドファンディングに取りかかりました。演劇祭関係者も避難所に身を寄せていたときです。ほとんどの公共劇場は地震被害で長期休館が免れない状況。花習舎は震源地近くにありながら、幸い大きな被害はありませんでした。

今、本当に被災地でアートは必要なのだろうかとの思いは常にありました。迷いの最中に全国から温かい支援が集まり、更に S O M P O アート・ファンドの支援をいただくことになりました。熊本とアートを応援してくださる気持ちが実行委員の支えとなり大きな後押しとなりました。

こうして震災の年も開催できた演劇祭は、緊張した心を解き、多くの人が演劇を楽しめるときを心待ちにしていたことが伝わってくる幸せな空気に満ちあふれました。助成 2 年目の演劇祭では、仮設団地でも福岡在住の女優による落語、長崎を拠点とする劇団の演劇、宮城から来た劇団のヒーローショーを実施。終演後には俳優と住民が集会所でお菓子を食べながら交流を深めました。落語では子どもたちが「おもしろかった！」と投げた座布団が相撲の一番直後のように宙を舞い、お礼にと俳優に団地に住む猫を紹介してくれました。東日本大震災の被災地、宮城の俳優は、その後も心を寄せてくれて個人で仮設団地を再訪しています。

震災後、「アートにできることはなんだろう？」とずっと考えてきました。その試行錯誤の取り組みは S O M P O アート・ファンドによって支えられてきました。アートは人を幸せにできる。そんな確信を胸にアートの役割を考え続けたいと思っています。

SASHIYORI Art Revival Connection KUMAMOTO

代表 松岡優子

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2017・2018・2020

／特定非営利活動法人 国際舞台芸術交流センター

[第 1・2・4 回助成]

採択されたプロジェクトを改めて拝見すると、志高くチャレンジ精神に溢れたプロジェクトばかりで、本ファンドの重要性を改めて実感すると共に、その一角に選ばれた意義と責任を再認識致しました。助成対象として選ばれたことは、金銭的支援は勿論のこと、活動の重要性を第三者から認知いただいたことも大きな価値でした。また、助成の設計が柔軟なため、より働きやすい状況を作るために活用できてとても助かりました。TPAM - 国際舞台芸術ミーティング in 横浜は 2017 年から間を置きつつ 3 回に渡りご支援をいただいてきましたが、アジアの新しい作家や作品、キーパーソンを紹介する「アジア・フォーカス」を実施した時期と重なりました。お陰様で、アジアにおける同時代性とは何かを問い、欧州中心主義的な同時代の舞台芸術表現を超える新しい作品や作家に出会い、より面白い創造活動に向かうためのヒントやアイディアを得る場として認知されることとなり、コロナ禍が本格化する直前に終了した TPAM2020 では 44 ヶ国・地域の 476 人が海外から集まり、日本人も合わせると 1000 人近い舞台芸術のプロフェッショナルが参加、世界有数のプラットフォームに成長することができました。「アジア・フォーカス」の 6 年の間に、主催公演の「TPAM ディレクション」ではアジアの作家の作品を中心に 100 を超える作品を、交流プログラムである「TPAM エクスチェンジ」では 600 を超える大小のミーティングを実施しました。公募公演プログラムの「TPAM フリンジ」も TPAM2015 では 27 会場 143 演目だったのに対し TPAM2020 では 47 会場 277 公演の登録がありました。この様に数字で「成果」を並べてしまいましたが、今、コロナ禍において舞台芸術も国際交流も厳しい状況にあり、私たちも気持ちを新たに一からまた始めていく必要を感じています。そしてこのような経験の糧になった SOMPO アート・ファンドの関係者の皆様には感謝に絶えません。TPAM は今年度から名称を「YPAM - 横浜国際舞台芸術ミーティング」に変えてフリンジプログラムに焦点をあてつつ再スタートを切ることになりました。SOMPO アート・ファンドもその使命を一旦終えられると伺いましたが、新たな時代に新たな支援が生まれることを期待しています。

特定非営利活動法人 国際舞台芸術交流センター

理事長 丸岡ひろみ

「ヒューマンセレブレーション 三陸国際芸術祭 2016・17・18」

／NPO 法人 ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク

「三陸国際芸術祭 2019」／三陸国際芸術推進委員会

※2019 より実行委員会を設立し実施したため主催団体変更

[第 1・2・3・4 回助成]

「SOMPO アート・ファンド」から三陸国際芸術祭は、第 1 回目の 2016 年から 2019 年まで 4 年間継続してサポートしていただきました。心から感謝しています。本当にありがとうございました。

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災で甚大な被害を受けた三陸沿岸で三陸国際芸術祭は 2014 年に始まりました。三陸は世界に誇れるほど郷土芸能が盛んなところ です。沿岸だけでなく各地域ごとに 400 団体以上の郷土芸能団体が存在しています。その芸能の多様さ、質の高さ、子どもから高齢者まで参加し、地域の人と人をつなぎ、過去と現在そして未来をつなぐ、大きな役割を担っていることに感動しました。芸術祭はその芸能を国内外に発信し、三陸と世界を結ぶために始まりました。

2014 年度から文化庁国際交流支援事業の委託、2015 年からは国際交流基金アジアセンターのサポートも受けて実施していたのですが、大きな経済的な課題がありました。それは両方とも委託や助成の期間が決まっていることと、対象経費が限られているということです。準備のためには年間を通して動く必要があり、助成期間外の交通費、宿泊費、人件費や対象外経

費のお弁当代などがすべて自己負担になってしまい、弱小の NPO 団体にとっては大きな経済的な負担が積みあがっていました。出演者が多いために弁当代といっても大きな額になります。

震災後から、文化芸術で三陸の復興のために何ができるだろうかと考え続け、芸術祭を多くの方々と始めた立場として、なんとか自己負担を減らして継続できる道を是が非でも見つける必要がありました。そのような時期にこの「SOMPO アート・ファンド」の公募が始まりました。一つの大きな光が見えたように思い、申請をし、無事に採択していただきました。そしてこのファンドの大きなところが、助成金使用の対象が限られていなかったことです。そのことによって、正直救われました。

ファンドのおかげで継続することができ、2018 年からは、青森県八戸市から岩手県陸前高田市までの 15 市町村と民間団体が参加しての「三陸国際芸術推進委員会」が創設され、事務局も JCDN だけではなく、大船渡の「みんなのしるし」、盛岡の「いわてアートサポートセンター」と分担して、企画・実施できる体制に変わってきました。

現在も三陸国際芸術祭が継続し、規模が拡大しているのも、あのときに SOMPO アート・ファンドに助けていただいたおかげです。本当にありがとうございました。

三陸国際芸術祭プロデューサー
NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク (JCDN) 代表
佐東範一

「飛生芸術祭」、『飛生芸術祭 2020「僕らは同じ夢をみる」』／飛生アートコミュニティー

〔第 3・5 回助成〕

飛生芸術祭は、北海道白老町の山奥にある 10 世帯ほどの小さな集落・旧飛生地区で行われている芸術祭です。廃校となった小学校とその裏の森を舞台に、2009 年より毎年継続して開催されています。

弊団体は 2018 年と 2020 年の 2 度、SOMPO アート・ファンドの助成をいただきました。

助成に申請した理由としては、2009 年から 2017 年まで飛生芸術祭の内容は飛生地区で行われていた「TOBIU CAMP」と「飛生の森の展覧会」の 2 つだけでしたが、町内の他地域にも活動エリアを広げようとしたことが主となります。これは、飛生が奥地にあるため車以外にアクセスの手段が無いことから「行きたくても行けない」という声が町内から上がっていたこと、また弊団体の視点が 2017 年までは外に（北海道外や国外に）向いていましたが、少しずつ内にも目を向け始めたことが影響しています。

2018 年は開催直前に（北海道では珍しい）大型の台風と、北海道胆振東部地震に立て続けに被災し、倒木や停電、校舎の損傷など大きな被害を受けました。開催困難な状況に追い込まれ、一番の収益イベントである TOBIU CAMP は開催中止といたしましたが、助成を受けていたことで森の展覧会や町中でのプロジェクトを無事に実施することができました。これは 2020 年も同様で、コロナ禍で TOBIU CAMP をやむなく開催中止にいたしましたが、助成によって他のプロジェクトを継続して開催することができました。また、アーティストとともに地域へのリサーチに時間をかけることができ、多くの人々とかかわりをもつことができました。私たちの活動をより深く知ってもらうきっかけにもなり、結果として町内外の応援者の増加にもつながりました。

現代ではアートに求められている役割は多岐に渡ると感じています。同時にアートに結果や有用性を求める傾向は危険だとも思いますが、地域やコミュニティーの再生、住民の誇りや癒しに繋がる効果、地域の資源や課題の発見など、町内のプロジェクトを実施することで多くの成果がありました。

飛生アートコミュニティー
事務局 森嶋 拓

「あいづまちなかアートプロジェクト」／あいづまちなかアートプロジェクト実行委員会

〔第 5 回助成〕

2020 年は新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行により、日常生活が一変し、それまでの常識が覆された一年だったかと思います。2013 年から毎年 10 月に開催していますあいづまちなかアートプロジェクトも、中止か開催かで紆余曲折の議論がありました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、会津若松で予定されていたイベントの多くが中止となり、様々な社会活動が自粛され、多くの方々が日常生活を制限されるなど、見通しの立たない不安な日々を送っていました。そうした時期だからこそ、アートの持つ力が私たちの心を癒し、豊かな想像力を育み、希望や夢を描く力を与えてくれることを信じて、アートプロジェクトを開催することとしました。

来場者への検温、手指消毒、来場者名簿の作成等を行う他、展示会場の定期的な換気や受付にパーテーションを設置するなどの感染対策を講じ、それらの対策が取れる会場に限定したため、結果として例年よりも規模が縮小することになりました。

そんな中、SOMPO アート・ファンドの助成を受けられたことで、展示会場に来場できない方にもアートに親しんでもらう取り組みを行い、コロナ禍の中でも、事業内容を充実させることができました。

たとえば、国内屈指のバンドネオン奏者である北村聡氏と地元芸術家の高橋克幸氏によるライブペインティングの様子を、シネマトグラファーであるリン・シン氏に映像作品として制作いただいたことや、会津大学短期大学部の協力を得て、漆のアート作品を展示している会場の様子を 360 度カメラで動画撮影し、ホームページ等を通して展示会場の雰囲気を追体験できる仕組みを構築することができました。

このように新しい生活環境の中でもアートを楽しめるような取り組みを行えたこと、広報物等への SOMPO アート・ファンドのロゴを掲出でき、社会的な信頼性を向上させることができたことは、我々にとって大きな励みと支援になったことを感謝申し上げます。

あいづまちなかアートプロジェクト実行委員会 事務局
(会津若松市教育委員会 文化課 文化振興グループ 副主幹)
佐藤 崇

選考委員からのメッセージ

～S O M P O アート・ファンド選考所感～

S O M P O アート・ファンドは当ファンドのための選考委員会を組織し、5 回の選考委員会を開催しました。ファンドの目的を実現するための活動を選ぶ重要な役割を担う委員には、ファンドの設立の経緯からその意義・ねらいをご理解いただきながら、損保ジャパン株式会社とともに選考しました。選考を通じて、当ファンドについての所感をご紹介します。（五十音順）

※五十音順

◆大澤寅雄 委員

【株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 主任研究員】

2016 年度から 2020 年度までの 5 カ年の S O M P O アート・ファンドを振り返ります。本ファンドは、次の芸術・文化活動を支援の対象としています。①未来の文化創造に貢献し、人々のクリエイティビティを高めていくような芸術・文化活動、②地域の魅力を顕在化させ、その独自性を発揮していくような芸術・文化活動、③文化による国際交流、および多方向性ある文化交流を促すような芸術・文化活動、④その他、芸術・文化による社会課題の解決および社会創造に寄与する活動。これらの 4 項目について、選考委員を務めた私自身の所感や本ファンドが果たした役割を考察します。

①未来の文化創造への貢献

本ファンドの支援活動の多くが、コンテンポラリーアートを軸としたアートプロジェクトや芸術祭であり、同時代に生きるアーティストとともに、芸術的な評価が定まらない表現や、社会的なメッセージも含む活動もありました。そうした表現を通して異なる価値観が浮き彫りとなり、議論を巻き起こすこともありました。ここで議論の内容を振り返るものではないですが、未来の文化創造のためには、既成概念や同調圧力を突破することや、異なる価値観の対立や不調和が生じる場合もあります。その局面にどのように向き合うべきか、その態度や姿勢について、選考委員である私自身としても強く感じました。

②地域の魅力の顕在化

本ファンドの創設と時期を同じくして「地域アート」に対する批評や批判が高まっていたこともあり、地域の活性化やツーリズムと芸術・文化との関係性は、表層的なものではなく内省的な活動が増えた印象があります。実際、採択活動の多くは、持続的・継続的に地に足を着けたアートプロジェクトや芸術祭であり、高い芸術性を志しながら、常に新たな地域の魅力を開拓する姿勢を評価しました。また、本ファンドがスタートアップを支えることになった新たな地域ベースの活動も見られ、今後の継続とさらなる発展が期待されます。

③国際交流、文化交流

本ファンドは、日本を代表する国際芸術祭を支援してきました。国や地方公共団体といった政府セクターの補助事業ではなく、民間企業による支援として国際交流に貢献した意義は大きいです。というのも、政府セクターが牽引する国際交流では、「国家」を背負うことになり、国家間の関係や文脈が、個人とはかけ離れてしまうこともあるからです。その点で、民間セクターこそが「市民」あるいは「人間」相互の対等な交流を促していく必要があり、本ファンドは全国各地の国際芸術祭で、その役割を果たしてきたといえます。

④社会課題の解決および社会創造

本ファンドの特徴の一つが、芸術・文化による「社会課題の解決」、「社会創造」を支援対象の一つとした点です。これは、2011 年の東日本大震災、2016 年の熊本地震、2018 年の北海道胆振東部地震などの大規模な災害だけでなく、高齢者、障がい者、外国人などの社会参加や、拡大する社会的・経済的格差の中で「アートにできること」という問いを自らに課した活動が、全国各地で展開されました。また、こうした活動への支援が、国や地方公共団体、民間企業の助成制度の潮流の一つでもあり、その潮流を牽引してきた本ファンドの貢献を高く評価します。

振り返ると、この5年間で芸術・文化を取り巻く環境は大きく変化しました。本ファンドはその環境の変化に適応していくための勇気と技術を提供していたに違いありません。2020年度は世界的なパンデミックという未曾有の環境変化に晒された芸術・文化ですが、本ファンドによって培われた勇気や技術が、この困難な局面を生き残る命綱となるのではないのでしょうか。

大澤寅雄【株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 主任研究員】

NPO 法人アート NPO リンク理事長、日本文化政策学会理事、九州大学社会包摂デザイン・イニシアチブのアドバイザー。共著＝『これからのアートマネジメント"ソーシャル・シェア"への道』『文化からの復興 市民と震災といわきアリオスと』『文化政策の現在 3 文化政策の展望』『ソーシャルアートラボ 地域と社会をひらく』。



◆山出淳也 委員

【NPO 法人 BEPPU PROJECT 代表理事／アーティスト】

「『SOMPO アート・ファンド』が繋いだ未来」

5年間にわたる助成活動。損保ジャパン株式会社の皆さまをはじめ、関係者の方々大変お疲れ様でした。SOMPO アート・ファンドの存在はとても大きなものでした。とすると、経済効率が優先される現代において、アートはわからないもの、無駄なもの、役に立たないものとして、切って捨てられることがあります。確かに、アートは人が生きるうえでは必要ないのかもしれませんが、しかし、人が人らしく生きていくためには、とても大切なものではないかと思うのです。そう感じられる瞬間を、僕たち現場の人間は数多く体験してきました。おそらく、この SOMPO アート・ファンドで助成を受けた各団体でも、日々そのようなことが起きているはず。小さな声に耳を傾ける。当たり前と漠然と感じている目の前の出来事を疑ってみる。体験したことがなくて言葉にもできないことを、ひとまず受け入れてみる。そんな新たな出会いや気づきというものを誘発してくれる、アートプロジェクトを支えていただきありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

SOMPO アート・ファンドの審査に携わることができ、多くを学ばせていただきました。特に、全国津々浦々でアートの可能性を信じ、地域と向き合う多くの人々の熱意をあらためて感じたことは、何よりも印象深いことでした。そしてそのいずれも、切実な思いをもち、優越つけられない素晴らしい提案でした。ご応募いただいた皆さん、どうもありがとうございました。

皆さんの大切な提案を審査するわけですから、それは大変な作業です。一つひとつ時間をかけていねいに読み込み、わからないものはヒアリングするなど、可能な限り実態を把握したうえで選出したつもりです。もっとたくさんの現場を応援したいと考えても、どうしても財源に限りがあるので、とても残念ですがすべてを選ぶことはできません。しかし、逆の視点で考えれば、選出されたそのラインナップは、SOMPO アート・ファンドが社会に向けて、今、発信すべきだと考えたメッセージともいえます。このファンドが掲げる、創造性にあふれた「未来の社会づくり」を担っていただくパートナーとその実現手法を、公募によって決める。そう考えるとわかりやすいかもしれません。

審査をするうえで個人的に大切にしたい観点は、未来への視線と関係者の広がりです。地域の課題は個別具体的で、解決するための方程式はありません。ましてや VUCA と呼ばれる現在、未来を予測することは困難です。頻発する災害、そして感染症の世界的な拡大。このファンドが始まった 2016 年は、まさか数年先にこのような状況が訪れるなんて、誰が予想できたでしょうか。山積する課題の中、日々目の前の処理に追われ、未来への想像力が失われてしまう、特にこの 1 年間はそんな状況だったように思います。そのような中、あきらめずアートという創造の翼とともに、地域と向き合い続ける皆さんの活動は尊い。5 年ではありましたが、その応援をお手伝いできてとても光栄でした。

目指すべき未来とはどのような姿なのか。地域社会において、それは一人で決められることでも実現できるものでもないでしょう。多様なセクターや異なる考え方を持つ方々とともに歩を進め、そして、その輪を広げ世界を巻き込んでほしい。そう強く願い

ます。

ちょうど今、東京五輪 2020 が閉幕しました。そして聖火も消えました。しかし、アートによる「未来の社会づくり」には終わりはありません。その活動や心の灯を絶やすことないよう、引き続き地域やアートと向き合ってください。

山出淳也 [NPO 法人 BEPPU PROJECT 代表理事／アーティスト]

1970 年 8 月 18 日生まれ。文化庁在外研修員としてパリに滞在（2002～04）。アーティストとして国際的に活躍した後、2004 年に帰国。2005 年に BEPPU PROJECT を立ち上げ現在にいたる。混浴温泉世界実行委員会 総合プロデューサー（2009～）、第 33 回国民文化祭・おおいた 市町村事業 アドバイザー、文化庁 審議会 文化政策部会委員（第 14 期～16 期）、グッドデザイン賞 審査委員（2019 年～）、山口ゆめ回廊 博覧会コンダクター（2019 年～）、平成 20 年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞（芸術振興部門）。



◆吉澤弥生委員

[共立女子大学文学部教授／NPO 法人地域文化に関する情報とプロジェクト[recip]理事]

「SOMPO／損保ジャパン株式会社」という名前を聞くと、美術に関心のある方はまずはゴッホの『ひまわり』や毎年春に行われる「FACE」展のことを思い浮かべるのではないのでしょうか。私もそうでした。だから 2016 年、全国各地で展開されるアートプロジェクトやアートフェスティバルへの助成制度「SOMPO アート・ファンド」を「2021ArtsFund（2021 芸術・文化による社会創造ファンド）」として新設する、という話を耳にしたときは驚きました。対象とする活動として掲げられた文章の中には、「人々のクリエイティビティを高めていく」「地域の魅力を顕在化させ、その独自性を発揮していく」「多方向性ある文化交流を促す」「文化・芸術による社会課題の解決および社会創造」といった言葉が並んでいました。SOMPO アート・ファンドが掲げたビジョンには、これからの社会で本当にそれが実現したらいいなと思える姿が示されていて、とても心強く感じたのを覚えています。

振り返ってみると 2000 年以降、アートをとりまく状況は大きく変化してきました。アートフェスティバルやアートプロジェクト、スペースやレジデンス施設が増えていき、2020 東京オリンピック・パラリンピック開催が決まると、行政や企業メセナもそのシフトに変わりました。文化芸術基本法（2017）ではアートと観光、まちづくり、国際交流、福祉、環境、産業との連携が示され、なかでも福祉分野では障害者文化芸術推進法（2018）もつくられるなど、いっそうアートの社会的機能が重視されるようになっていきます。また、アートのづくり手たちの中から労働問題やハラスメント、差別に対する申し立ての声が上がり、その持続可能な環境づくりと価値観のアップデートに向けた動きも見られるようになってきました。一方、中傷や脅迫のようなかたちでアートに関心を向ける層も現れ、文字通りの安全確保を考慮しながらの事業運営が必須となっていきます。そしてコロナ禍では多くの現場が活動継続の、また従事者は生活維持の困難に直面しました。なんとか踏みとどまっているところはあると思いますが、現時点で影響の大きさは見えてきません。

そんな激動の時代に行われた、全 5 回の採択活動をあらためて振り返ってみます。まず、災害によって大きな被害を受けた地域のプロジェクトが目立ちました。ここに強いメッセージを感じます。とはいえ全体を見渡すと、地域的な偏りはなく全国津々浦々、いわゆる地方も都市部もカバーされています。ジャンルで見ても美術、演劇、ダンス、芸能、音楽、工芸、写真などさまざまです。芸術祭も、世界的に有名な大規模なものから、始まったばかりのもの、コンパクトかつ濃密に開催されているものまで幅広く、数年単位、長いものでは十数年にわたって地道に続けられている各地のアートプロジェクトもあります。このように全国各地で芸術文化活動が続ける方々にとって、SOMPO アートファンドは金銭的な支援に止まらないエンパワメントとなったことでしょう。一つの企業が文化活動の支援事業を 5 年間継続したという事実、またそのメッセージはずっと残ります。SOMPO アートファンドは、日本のアートプロジェクトやアートフェスティバルをめぐる「状況」の一部となったといえるでしょう。

吉澤弥生 [共立女子大学文芸学部教授／NPO 法人地域文化に関する情報とプロジェクト[recip]理事]

大阪大学大学院修了、博士（人間科学）。専門は芸術社会学。近著に「芸術労働者の権利と連帯」、山田創平編著『未来のアートと倫理のために』（左右社、2021）、「アートはなぜ地域に向かうのか」『フォーラム現代社会学』第 18 号（関西社会学会、2019）、単著『芸術は社会を変えるか？』（青弓社、2011）など。



S O M P O アート・ファンドを実施して

◆損害保険ジャパン株式会社

わたくしども損保ジャパンは、1976 年に新宿本社ビルに美術館を開館し、アジアで唯一、ゴッホの《ひまわり》を見ることができ美術館として親しまれ、これまで 600 万人を超える方々に来館いただいております。また、美術館だけでなく、名古屋ビルには人形劇専用劇場「ひまわりホール」などを有し、過去から文化・芸術の振興に取り組んでまいりました。

日本政府は 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて「文化芸術立国」を掲げました。成熟国家である日本において開催されるオリンピックは、人々の生活の質を高め、人生の幅を広げるような文化・芸術の取り組みが求められ、当社では、これまで取り組んできた文化・芸術活動のネットワークを最大限活用し、地域の文化振興の取り組みを通じて、オリンピックレガシーの構築へ向けて取り組んでいきたいと「S O M P O アートファンド」を創設しました。

芸術文化は都市に集中しがちですが、全国各地の多彩なアートを応援することで、より多くの方々の心を潤し、また、次世代に本物のアートを楽しんでもらうことは豊かな感性や創造力を育み、「未来の社会づくり」に貢献できると考えております。各地で趣向を凝らした多彩なアートフェスティバルが開催され、特に、近年は、地域の特性を活かしたアートプロジェクトも盛んに展開されており、その土地ならではの景観や生活、歴史などの地域資源をプロジェクトに活用することで、その土地の潜在的な魅力を引き出し、地域の活性化に貢献できたのではないかと考えております。

また、本ファンドは芸術文化関係者のネットワークづくりも主要な目的の一つとしており、企業のメセナ活動を彰する「メセナアワード 2018」では、本ファンドが「大小問わず全国の活動にチャンスを与えている」こと、「助成団体の交流の場を持ち、芸術文化のネットワーク形成に寄与している」ことが評価され優秀賞「アートで未来盛り上げ賞」という素敵なネーミングの賞をいただきました。

2020 年で本ファンドの活動は終了しますが、S O M P O のパーパスは「安心・安全・健康のテーマパーク」により、あらゆる人が自分らしい人生を健康で豊かに楽しむことができるという社会を実現することです。文化・芸術は、人の心を潤し、地域を豊かにする力を持っています。今後もこうした芸術が持つ力で多様性と笑顔あふれる地域社会づくりに貢献していきたいと考えております。

企業メセナ協議会ならびに S O M P O アートファンドご協力を賜りました関係各位に厚くお礼申し上げます。



損保ジャパン

損保ジャパン「SOMPO アート・ファンド」(企業メセナ協議会 2021 Arts Fund)

「SOMPO アート・ファンド」報告書
2022 年 3 月 31 日発行
発行：公益社団法人企業メセナ協議会
108-0014 東京都港区芝 5-3-2 +SHIFT MITA 8 階
Tel.03-5439-4520 Fax.03-5439-4521
編集：佐藤華名子 | 妹尾美穂子 | 澤田澄子



公益社団法人 企業メセナ協議会
Association for Corporate Support of the Arts